

2024年度 公募推薦選抜問題 (90分)
C 日程 11月19日(日)

基礎学力テスト

英 語	1～7 ページ
数 学	9～13 ページ
国 語	15～25 ページ

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 上記の科目から2科目選択してください。
3. 解答用紙には、英語・国語(赤色)・数学(青色)の3種類があります。
4. 試験開始後、解答用紙に受験番号と名前を必ず記入し、受験番号をマークしてください。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄にマークしてください。
6. 問題用紙の余白は計算に使用してもかまいませんが、解答用紙を汚してはいけません。
7. 試験開始後、問題用紙・解答用紙に落丁・損傷がないか確認してください。
8. 数学の問題の冒頭には「解答上の注意」が記入されていますので、必ず読んでから解答してください。
9. 解答済みの答案は、2科目重ねて提出してください。
10. 不要になった解答用紙も回収します。
11. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

国語

1 次の問い（問1～3）に答えなさい。

問1 ア～ウの傍線部のカタカナに相当する漢字を、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選
びなさい。 1、2、3

ア その道の専門家からチグウを得る。 1

① 偶 ② 宮 ③ 遇 ④ 隅

イ セイゼツな戦いの光景に心を痛める。 2

① 征 ② 凄 ③ 制 ④ 醒

ウ 開店初日の営業はセイキヨウのうちにと終わった。 3

① 況 ② 狂 ③ 恭 ④ 競

問2 ア～エの四字熟語の空欄 4、5、6、7 に入る漢字を、次の①～⑨の中からそれぞれ
つ選びなさい。 4、5、6、7

ア 一代の風雲児は毀誉 4 貶相半ばする人物だった。

イ 書物に埋もれて韋編 5 絶の日々を送る。

ウ その地はかつての戦場において金城 6 池であったと言われている。

エ 気がせくあまり話が支離滅 7 になる。

① 三 ② 断 ③ 湯 ④ 裂 ⑤ 報
⑥ 褒 ⑦ 統 ⑧ 烈 ⑨ 却

問3 ア～ウの筆者の著作を、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つ選びなさい。

ア 三島由紀夫 8

① 『黒い雨』 ② 『富嶽百景』 ③ 『仮面の告白』 ④ 『夢十夜』

イ 小川洋子 9

① 『キッチン』 ② 『マイマイ新子』 ③ 『きらきらひかる』 ④ 『博士の愛した数式』

ウ 寺田寅彦 10

① 『科学の落とし穴』 ② 『科学者とあたま』 ③ 『春の教えかた』 ④ 『動的平衡』

② 次の〈文章Ⅰ〉・〈文章Ⅱ〉を読んで、後の問い(問1～6)に答えなさい。

〈文章Ⅰ〉

近年の動向として健康増進への焦点のシフトがあることを論じたが、公衆衛生の新しい課題としてもう一つ指摘されるべき論点が「健康格差」である。^A健康格差がいまや広く社会的問題とみなされるようになってきていることは、多くの人が感じていることであろう。

健康格差という言葉のそもそもの意味は、読んで字のごとく、ある集団の内部で人々の健康状態に差がある(平等ではない)ということである。しかしながら現在広く論じられている健康格差はもつと限定的な意味をもつ。すなわちそれは、単に人々の健康状態に差があるということではなく、人々の「社会経済的状況(socioeconomic status: SES)」に関連する形で健康に差があるということを指している。

社会経済的状況とは、職業、学歴、家族関係、居住地域、利用可能な社会保障制度など、各人の生活に影響を及ぼすさまざまな背景を指す。かなり広い概念だが、従来の医療が基本的に患者の身体に注目してきたことに対し、そのような視点では捉え損なってきた要素全体が、ここで指摘されているものであると言える。そういった要素に基づく健康の不平等、たとえば、所得の低い人は所得の高い人に比べて平均寿命が短いとか、糖尿病にかかっている人には正規雇用にある人よりも非正規雇用あるいは無職の人が多いとか、そういった健康の不平等を指して健康格差と呼ぶ。このことを明示するために、「社会階層による健康格差」あるいは「健康の社会的格差」と述べられることもある。^Bとある厚生労働省の資料では明示的に、健康格差は「地域や社会経済状況の違いによる集団における健康状態の差と定義される」と記されている。

人々の社会経済的状況と健康との間の関係を実証的に明らかにし、健康格差の原因と対策を検討する学問分野が「社会疫学(social epidemiology)」である。医学および物質的豊かさが大きく発展した現代においても、すべての人々が等しく不健康を免れているわけではない。これは、社会の発展の恩恵を得ている人と得ていない人がいる、ということである。そのような差異は、人々の暮らしている社会的・経済的な背景によるものであると考えられるだろう。現代では世界的に、不健康の社会経済的な要因に対処していくことが広く求められるようになってきている。日本でもすでに、国の定めた政策方針である「健康日本21(第二次)」において、「健康格差の縮小」が目標の一つに置かれている。

〈文章Ⅱ〉

公衆衛生政策の新しい手法として大きな注目を集めているのが「ナッジ(Nudge)」である。ナッジとは、人々がより合理的な判断を下すことができるように、選択する場面の枠組みを設計する手法のことである。人々の選択そのものに介入するのではなく、あくまで選択の枠組みに介入する点がポイントとなる。例を挙げれば、レストランのメニュー表示(あるいはビュッフェにならべられる料理の順番)において、健康に良いとされるものを一番前に置くことで、人々が深く考えることなしに自身のためになる選択肢を選ぶようにする(合理的な選択をなす手助けをする)ことが可能であることがわかっている。

ナッジの背景には、^Cリバタリアン・パターナリズムと呼ばれる政治哲学がある。リバタリアン・パターナリズムによれば、ナッジによる選択状況の設計は、他の選択肢を選ぶ余地を残している点で選択の自由を制限していない(リバタリアニズム)。選択状況を変更することは、特定の選択肢を強制することとは異なるのであり、選択状況を変更するだけならば選択肢それ自体は縮減されずに保たれて

いるというわけだ。しかし、D ナツジによる設計は同時に、特定の選択肢へと人々を誘導することで、より良い選択をすることを助けるものでもある(バターナリズム)。ナツジを通じて推奨される選択肢は、あくまで本人が欲するものである。すなわちナツジは、ナツジされる本人が十分な情報を持ちバイアスから逃れていたならば選択していたはずの選択肢を実現させるものであり、本人の福祉を抑圧なく促進するものとして主張されている。

以上から明らかのように、ナツジの魅力は、(単に有効性の高い介入であるということではなく)人々の自律を制限することなしに有効な介入をなすことを可能にする点にある。ナツジの背景には行動科学の知見、すなわち、人々には認知的な誤りに陥りやすい状況があるという理解がある。これを受けて、認知的なバイアスを回避できるように選択状況を設計できるならば、それは人々の本来の欲求を尊重しつつお人々の選択を改善するものであり、たしかに理にかなっていると言えるだろう。

ナツジにおいては、「有効な介入」と「自律の尊重」との対立を消去できる可能性がある。この意味で、ナツジが多く政策領域のなかでもとりわけ公衆衛生にとって魅力的なものであるのは間違いないだろう。実際のところ、健康増進のためのナツジの利用はすでに広く検討されている。もしナツジによって、自律についての制約が相対的に小さい形で人々の健康を促進できるとするならば、有効性と自律尊重をめぐる公衆衛生のジレンマが緩和されることになる。

さらに言えば、ナツジによる介入は上にみた健康格差の問題についても有効な解決策となる可能性をもっている。健康格差の一つの問題は、たいていの公衆衛生政策ははじめから健康である人に届きやすく、それゆえ介入を通じて格差をかえって拡大してしまいうる、というものである。もともと生活に余裕があり健康に関するリテラシーが高い人のほうが生活改善へのハードルが低いが、そのような人が健康になっても格差は縮小しないわけである。しかしナツジによって人々を健康行動へ誘導することができるならば、各人の有する社会経済的な背景や知識の多寡とはほとんど無関係に、誰もが等しく健康行動を促されると考えられる。ナツジは人々の認知のメカニズムを利用するものであり、裕福な人だけ、あるいは知識のある人だけがナツジに反応するわけではない。E そのような介入は健康格差の縮小につながると期待されよう。

しかしナツジが公衆衛生にとって魅力的な一手であると言い切ることができるのは、ナツジの魅力について十分な精査がなされた後のことである。実際のところ、ナツジおよびリバターアン・バターナリズムにはさまざまな倫理的懸念が表明されており、大きな論争が展開されている。F ナツジが魅力的な解決策であるのかどうかは、それらの倫理的懸念をめぐる詳細な検討の結果によって決まる。

(玉手慎太郎『公衆衛生の倫理学 国家は健康にどこまで介入すべきか』による。)

なお、本文中に一部省略したところがある。)

問1

傍線部A「健康格差がいまや広く社会的問題とみなされるようになっていく」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

11

- ① 少子高齢化が進む日本では、今後いつそう医療や介護に関する負担が増大していくことが予想され、高齢者を支える若者層の経済的負担は増加する一方であるということ。
- ② 高い経済成長が望めない状況下で活力ある社会を実現するためには、健康維持に必要な諸政策を実現させ、労働力人口を確保することが重要だということ。
- ③ 所得の格差や教育の格差が病気のなりやすさや発見しやすさの格差につながり、居住地域によっても医師や病院の数に差があることで治療に関する格差も広がるということ。
- ④ 健康リスクが高い集団の中には、経済的理由などにより健康行動が保てない人々が存在するため、定期的な健康診断や保健指導を受けやすい環境整備が必要だということ。
- ⑤ 人々の健康状態に不平等が起こる要因には、個人個人の置かれた社会経済的状況が密接に関わっており、差異の縮小のためには社会としての対策が必要であるということ。

問2 傍線部B「とある厚生労働省の資料では」とあるが、次の厚生労働省による【資料】から読み取れる内容として適当なものを、後の①～⑥の中から二つ選びなさい。ただし、解答の順序は問わない。

12
・
13

(注) 健診 —— 健康診断。

【資料】

平成30年「国民健康・栄養調査」の結果

—— 所得により生活習慣や食生活に差 ——

このたび、平成30年11月に実施した「国民健康・栄養調査」の結果を取りまとめましたので、公表します。平成30年調査では、毎年実施している基本項目に加え、所得等社会経済状況と生活習慣等に関する状況を重点項目とし、その状況を把握しました。

【調査結果のポイント】

生活習慣等に関する状況を所得別に比較すると有意な差

- ・現在習慣的に喫煙している者の割合、健診未受診者の割合、歯の本数が20歯未満と回答した者の割合は、世帯の所得が600万円以上の世帯員に比較して、男女ともに200万円未満の世帯員で有意に高い。
- ・歩数の平均値は、世帯の所得が600万円以上の世帯員に比較して、男女ともに200万円未満の世帯員で有意に少ない。

就業時間が週に1～39時間の者は、男女ともに健診未受診者の割合が高い

- ・1週間の平均的な就業時間が週に1～39時間の者における健診未受診者の割合は、男性26.3%、女性29.4%と他の就業時間で働く者と比較して高い。

栄養バランスのとれた食事をしている者の割合は4割超だが、所得別では差がみられる

- ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることが、「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、男性45.4%、女性49.0%。
- ・所得別でみると、「ほとんど毎日」と回答した者の割合は、世帯の所得が600万円以上の世帯員に比較して、男女ともに200万円未満の世帯員で有意に低い。

「加熱式たばこ」等の喫煙状況を今回初めて把握。また、受動喫煙の状況については改善傾向

- ・現在習慣的に喫煙している者が使用しているたばこ製品について、「紙巻きたばこのみ」、「加熱式たばこのみ」、「紙巻きたばこ及び加熱式たばこ」の割合は、男性では68.1%、22.1%、8.5%、女性では76.1%、14.8%、8.8%。
- ・家庭、職場、学校、飲食店、遊技場、行政機関及び医療機関における受動喫煙の機会を有する者の割合は有意に減少。

- ① 派遣・契約社員など非正規雇用の人の健康診断の受診率が低くなっている。
- ② 所得の高い人の方が所得の低い人よりも栄養バランスの良い食事をとっている。
- ③ 所得が少ないことをストレスと感じ喫煙や飲酒に走ることによって病気になるリスクが高まる。
- ④ 外食の余裕がない低所得世帯の人の方が栄養バランスを考えた食事をとる頻度が高い。
- ⑤ 治療目的ではない歯科検診は保険が適用されないため、所得が低い人ほど治療を避ける。
- ⑥ 日常生活におけるさまざまな場面で、受動喫煙のリスクは減少したと考えられる。

問3

傍線部C「リバタリアン・パターナリズムと呼ばれる政治哲学」とあるが、それはどのような思想と考えられるか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

14

- ① 社会全体の健康リスクを低下させ、公共衛生政策を合理的に推進していくために、国民が健康的な生活を習慣化できるような施策を検討すべきだとする考え方。
- ② 社会全体の幸福のための制度設計は不可欠であり、長期的に見て当人の利益になるのであれば短期的な利益をある程度制限することは許されるという考え方。
- ③ 権力の介入が個人の選択の自由を阻害することなしに、社会全体の利益を守る方向へと個人の行動を誘導するように環境や条件を整えていこうとする考え方。
- ④ 健康格差の拡大によって社会保障制度に混乱が生まれ、公衆衛生状況が悪化することを防ぐために、制度改革を含めた機能強化を政府に対して求める考え方。
- ⑤ 個人のモラルに依存した行為変容を求めるのではなく、設計によって強制的に、かつ意図を悟らせない形でより良い選択をさせることが望ましいという考え方。

問4

傍線部D「ナッジによる設計」とあるが、その具体例として**適当でないもの**を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

15

- ① がんの集団検診受診率を上げるために、申し込み時に胃がん・乳がん・大腸がんなど、受けたい検診を個別に選択する方式から、あらかじめセットにして希望日を○で囲むだけの方式に変えた。
- ② 歩行者の通行を著しく妨げる路上での放置自転車をなくすために、「このまちの未来」というテーマで子どもたちが絵を描いた路面シートを路面に張り、あわせて駐輪場の案内板を設置した。
- ③ 臓器移植の件数を上げるために、生前に提供の意思表示をした人から臓器提供を行う方式から、提供しないという意味が示されていない限り臓器提供を可能とする方式への切り替えを検討する。
- ④ ジェネリック医薬品（後発医薬品）の普及率向上のために、患者からの処方申し出制から、望まない場合に限り処方箋の「後発医薬品への変更不可」欄に医師が署名する方式に変えた。
- ⑤ 悲惨な交通事故による死者数を減らすために、シートベルトを着用しなかった場合に自動車免許の点数を減点する罰則を設け、シートベルト未着用時の警告表示を自動車メーカーに義務づけた。

問5 傍線部E「そのような介入」とあるが、どのような介入か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

16

- ① 健康に関するリテラシーが低い人々に焦点をあて、その人の本来の欲求を尊重しつつ、可能な範囲で健康行動へと誘導するような介入。
- ② 生活に余裕がありはじめから健康な人がますます健康になって、余裕のない人が健康状態を改善することを難しくさせるような介入。
- ③ 不健康な生活習慣を改善したいと思っても経済的事情などで実行できない人々や、健康に関心がない人々を啓蒙する^{けいもう}ような介入。
- ④ 各人の経済的な事情、居住地域などの社会的背景、知識の多寡などとは関係なく、万人が平等に健康行動に誘導されるような介入。
- ⑤ 自分に都合のいい情報を信じがちであるという認知メカニズムを利用して、健康になるための個々人の努力を後押しするような介入。

問6

傍線部F「ナッジが魅力的な解決策であるのかどうかは、それらの倫理的懸念をめぐる詳細な検討の結果によって決まる」とあるが、本文を読んだ高校生5人が傍線部Fについて話し合った。〈文章I〉・〈文章II〉の内容に即した発言として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

17

- ① Aさん…〈文章II〉にあるように、ナッジによる介入は「健康格差の問題についても有効な解決策となる」とあるね。でも「倫理的懸念」があるのは、ナッジがもともと生活改善へのハードルが低い人には届きにくいからかな。
- ② Bさん…〈文章II〉を読むと、ナッジは個人の認知上のバイアスを利用して選択を方向づけることみたいだね。本当に個人が熟慮する機会を奪って選択の余地を狭めていることにならないのかな。人権を侵害するおそれもあるような気がする。
- ③ Cさん…そもそも健康は自分のために願うものでしょ。「社会全体のリスクを減らすために公衆衛生を守りましょう」というのは、自分たちの生活で手いっぱいの人に比べては、規律の押しつけとしか思えないという問題があるんじゃないのかな。
- ④ Dさん…〈文章I〉にあるように、「所得の低い人は所得の高い人に比べて平均寿命が短い」なんていわれたらすごく悲しくなるよね。格差解消と言いつつ、差別や分断を作ってしまう一因になることが倫理的な問題なのかもしれない。
- ⑤ Eさん…個人の自由は確かに最大限尊重されるべきだけど、国家には公共の利益を守る役割があるからね。ただ例えば、本来の目的は公的医療支出の縮小だとしても、国民の健康の増進のためと偽ることができる。それは問題だよね。

3 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。

購入した古民家をリフォーム中の小山亮一のもとへ、お菓子の箱に入った腕時計が見つかったとリフォーム会社から連絡があった。家の売主に時計を返却したところ、マスクットとお札の手紙が送られてきた。

時計は、売主の男性が、子供の頃に通っていた保育園の保育士のものだという。

ある日のプールの時間、見学していた彼は、短大を出たての、若い女性の保育士から、「ちよつと、あずかっててくれる？ みずにぬれるとこまるから。」と、この時計を手渡された。人気者の彼女は、はしやぎまわる子供たちに水しぶきをかけられて、衣服を濡らしていた。

彼は、それをなくさないようにポケットにしまった。そして、二人ともそのまま忘れて、時計を、自宅に持ち帰ってしまったのだった。

翌日、若い保育士は、彼に声をかけて、「Yくん、せんせいきのう、うでどけい、かえしてもらったよね？」と尋ねた。

彼は、「うん。」と答えた。

「そう、かえしてもらったよね、……」

帰宅して、昨日、脱いだズボンのポケットを探ると、腕時計が出てきた。彼は、返し忘れていたことよりも、返したと言ってしまったことのせいで、どうしたらいいのかわからなくなった。捨てることもできず、隠し場所を考えたが、両親の部屋で寝起きしていたので、なかなか思いつかなかった。困った末に、彼はそれを、お菓子の箱に入れて、天井裏に隠すことにした。以前、いとこと押し入れで遊んでいた時に、そこに天井裏への出入口があるのを見つけていたのだった。若い保育士は、その後二度と、彼に時計の話をしなかった。両親にも、問い合わせなかったようだった。

A 卒園を間近に控えた頃、その保育士が退職するという噂が広まった。

彼はようやく、時計を返さなければならぬと思うようになった。ところが、天井裏のフタを開け、手で探ってみても、菓子箱はなかった。顔を半分、突っ込んで見てみたが、やはりない。ふしぎだったが、母親が見つけて、黙って先生に返したのではという気がした。子供らしいおかしな考えだったが、それで彼は、時計の行方を捜すことを諦めてしまった。ホコリっぽい天井裏が、恐かったせいでもあった。

このふしぎは、しかし、意外にいつまでも彼の心を離れなかった。彼はその保育士を慕っていたのだった。

小学六年の頃、一度、懐中電灯で天井裏を照らしてみたことがあったが、やはり時計も箱も見当たらなかった。

その後は、大学進学を機に実家を出て、ほとんど時計のことも忘れていた。思い出したのは、三十代になって失職し、その後、不安定な生活が続くようになってからだった。

彼は、あれは自分の人生の間違いの始まりだったのではと思うようになった。

B あの時の不正直が、その後もずっと尾を引いていて、今に繋がっているのではないか？

悪い「自己責任論」だった。

父が他界し、去年、母をも失った時、語りそこなった話題の一つとして、この時計のことが、一瞬、彼の脳裡を過った。しかし、母は恐らく、何も知らなかっただろうという気がした。

それで、生まれ育った古い家を処分し、思いがけず、その時計が出てきたというのは、彼には何か、自分の人生を変えるほどの大きな出来事と感じられた。与えられたのは、真摯な謝罪のチャンスだった。

保育士を探し出すには苦勞したが、旧友数人に事情を打ち明けると、仲介してくれる別の保育士に辿り着いた。奇妙な話だったが、警戒されなかったのは、彼の人柄だろう。メールを書き送ると、保育士も彼のことをよく覚えていて、しかも、時計がなくなった騒動も記憶していた。当人に転送してもらえらることになり、彼はようやく、すべてを打ち明ける手紙を書き、謝罪し、時計を修理して郵送したのだった。

結婚して姓が変わった彼女は、今はもう、六十三歳になっていた。すぐに返信が届き、連絡をもらえたことを喜んでいた。札を言い、自分の方こそ、園児に時計を預けるといふのは、まったく軽率で、その後、彼がそのことを気にし続けていたと知り、胸が痛んだと書いてあった。彼女は、たった一度しか、彼に時計の返却を確認しなかったが、どうもその不注意によるトラブルを、園長に叱責されていたらしい。彼女もまだ、二十歳を過ぎたばかりだった。

続けて手紙には、こうあった。

実は、あの時計は、短大に入学した時に父に買ってもらったもので、大切にしていたので、ずっと悔やんでいた。母は亡くなり、父は今は施設に入っていて、最近はコロナで面会を制限され、元気がなかったけれど、先日ようやく会って時計を見せると、泣いて喜んでくれた。自分も涙が出た。父も古い先あまり長くないと思うので、時計が戻ってきて本当に良かった。捨てずにとっておいてくれて、ありがとう、と。

彼女の中では、彼はまだ、保育園児の頃のままでの姿をしている様子だった。

売主の男性は、その顛末をどうしても話したくて、マスカットと一緒に、札状を送って来たのだった。

亮一も聡実も、これは美談なのだろうか？と、手紙を読んで混乱した。しかしともかく、時計を捨てなくて良かったのだった。そして、なくした時計が四十年ぶりに出てきて、喜んでいる親子の姿を想像するのは、悪い気分ではなかった。

送られてきたマスカットは、あつという間に、子供たちに平らげられた。

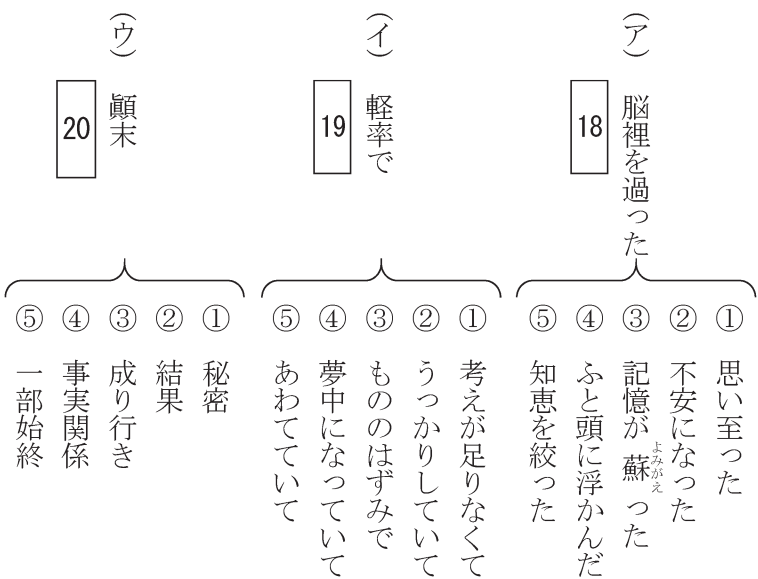
夫婦二人は、その日は、天井裏の時計を巡って、この半年ほどの間、終ぞなかったほど静かに、深夜まで語り合った。

彼らの中で、半年以上も壊れかけていた時計が、ようやくまた動き出した。隠した覚えはなかったが、それはしばらく、確かに見失われていたのだった。

(平野啓一郎「天井裏の時計」『モノガタリプロジェクト編』)

『モノガタリは終わらない』所収による。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つ選びなさい。 18、19、20



問2 傍線部A「彼はようやく、時計を返さなければならぬと思うようになった」とあるが、このときの「彼」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 21

- ① 返したと先生に言ってしまったためにどうしたらいいかわからなくなり、天井裏に隠すことにしたが、先生が退職するという噂を聞いてようやく時計のことを思い出した。
- ② わざとではないものの先生に嘘をついたことになったため、返すことができなくなり見えない場所に時計を追いやったが、先生がいなくなればもう返せなくなることに気づいた。
- ③ 他人の時計をこっそり持っているところを両親に見つかって問いただされることを恐れ、天井裏にしまっておいたが、別れの時が迫り、先生にもう一度聞かれることを覚悟した。
- ④ 先生に時計を返すタイミングを逸してしまい、持て余してそのまま安全な場所に隠しておいたが、自分が卒園する前に先生に返しておいた方がいいと考えるようになった。
- ⑤ 先生の時計を持ち帰ったことが誰かに見つかると困るので、両親の目に触れない場所に隠したものの、いつの間にか消えていてどう言い訳したらいいかとすっかり困り果てた。

問3 傍線部B「悪い『自己責任論』」とあるが、どのように思っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 22

- ① 自分で責任を背負いきれず、自分以外の人間に責任転嫁して安心している。
- ② 生活を立て直す気力もなく腑甲斐ない生活の理由を何かのせいに行っている。
- ③ 自分の悪い行動の結果、危機に陥ったのだから自業自得なのだと考えている。
- ④ 挽回できない失敗をした自分はいくら努力しても報われなれないと思いつんでいる。
- ⑤ 何の因果関係もないのに、不遇な生活を自分の過去の行動のせいに行っている。

問4 傍線部C「亮一も聡実も、これは美談なのだろうか？」と、手紙を読んで混乱した」とあるが、二人はなぜ「混乱」したのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 23

- ① 「美談」といえば、ほめたたえるべき道徳的に立派な行いのはずだが、どう見ても子供の頃の失態を運良く帳消しにできたという都合のいい話にすぎないとあきれたから。
- ② 「彼」の行為よりも、入学祝いに父親に買ってもらった大切な時計を返さないまま紛失していた子供を責めずに感謝する先生の寛大さの方がたたえられるべきだと感じたから。
- ③ 困っている人を助ける話や、お世話になった相手に恩を返す話であればともかく、失くした時計がたまたま見つかり持ち主に返したことを「美談」と呼べるのか疑問に思ったから。
- ④ 先生が「捨てずにとっておいてくれて、ありがとう」と感謝し、親子の感動の場面を伝えたことで、「彼」の罪滅ぼしが「美談」の様相を呈し、受け止め方に迷ったから。
- ⑤ 「彼」が時計を返却したのは、自分の間違いを正して人生を変えようとする自分本位な動機によるものなのに、先生に喜ばれたと嬉しそうに報告することが納得できなかったから。

問5 傍線部D「半年以上も壊れかけていた時計が、ようやくまた動き出した」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。 24

- ① 「彼」が修理して先生に送った時計が、元の持ち主の腕でもう一度時を刻み始めたように、亮一の家でも半年間壊れたままだった時計が動き始めたということ。
- ② 自分たちが古民家を購入したことが巡り巡って、見知らぬ親子の喜びにつながったと知り、日々の疲労から沈んでいた気分が久しぶりに高揚したということ。
- ③ 天井裏から発見された時計の結末について夫婦がお互いに考えを語り合っているうちに、普段の体感よりはるかに早く時計の針が進んでいたということ。
- ④ 四十年以上経って持ち主に返還された時計のおかげで、半年前から普通の会話が途絶えがちな亮一夫婦の間で、以前のように語り合う時間が戻ったということ。
- ⑤ たまたま見つかった時計に、家の売主の人生を左右するような物語が隠されていたことと興奮し、思わず夫婦二人で時を忘れて語り明かしたということ。